温根内ビジターセンター木道（鶴居村）

道経連会報 No.298
CONTENTS

巻頭言 ―― 1
第51回定時総会 ―― 3
創立50周年記念式典・祝賀会 ―― 10
創立50周年記念誌の発刊 ―― 21
2026年度国の施策及び予算に関する要望活動について ―― 22
常任理事会レポート ―― 29
在札米国総領事との意見交換 ―― 30
会員企業紹介 ―― 31
グループ活動報告 ―― 33
北海道の経済動向 ―― 48
人事・労務相談日 ―― 50
道経連カレンダー ―― 51
事務局人事 ―― 52
会員入会のお知らせ ―― 53
わがまち紹介（鶴居村） ―― 54

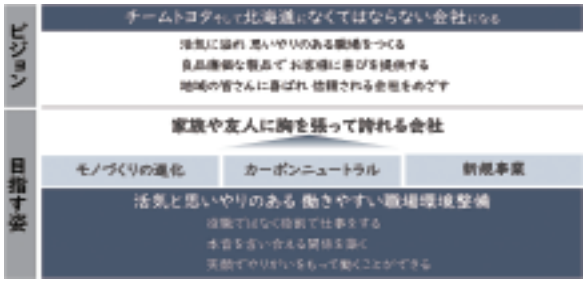
巻頭言

北海道経済連合会　副会長
高橋　慎弥
トヨタ自動車北海道株式会社
代表取締役　取締役社長

北海道の未来創造に向けて

愛知県名古屋市で生まれ育った私はトヨタ自動車で33年間勤務しました。本社および工場勤務に加え、アメリカ、南アフリカ、ロシア、中南米と、幅広い地域で15年ほどの海外経験も積んできました。ロシアでの勤務後、ご縁あって北海道へ参り早くも一年半が経過しました。

昨年、トヨタ自動車北海道の社長に就任し、会社のビジョンである“チームトヨタそして北海道になくてはならない会社になる”を継承しつつ、新たに中期活動計画を策定しました。この計画は、今後の会社の方向性を示すものです。この中で特に心を込めたのは「従業員ファースト」という明確なメッセージの発信です。社長就任直後には、会社初のテレビCMにも挑戦しました。その目的は、単なる宣伝ではなく従業員のエンゲージメント向上を図ることにありました。従業員一人ひとりが会社の一員であることを誇りに思い、共に成長



トヨタ自動車北海道のビジョンと目指す姿

テレビCM化したPRイラスト

していく姿を描いたのです。

私がここまで“従業員”にこだわる背景には、直前の赴任先であったロシアでの経験があります。2022年から2023年夏までサンクト・ペテルブルクに赴任していましたが、ウクライナ情勢の悪化に伴い、生産事業からの撤退を余儀なくされました。これは、2,000人以上の従業員の方々を合意解雇せざるを得ない心が引き裂かれるような辛い経験でした。

その直後、北海道で新たなスタートを切るにあたっては、仲間の笑顔を大切にしたい、そしてそのための職場環境を作りたいという、ある意味、ロシアでは達成できなかったことを、この地で今度こそ実現させたい揺るぎない想いがあったのです。

中期活動方針では、“家族や友人に胸を張って誇れる会社”を目指す姿を掲げております。具体的な取り組みとしては、本業であるモノづくりの進化はもとより、カーボンニュートラルや新規事業への取り組みを柱としております。これらは、いずれもビジョンにある「北海道にとってなくてはならない」の具現化として極めて重要と考えています。北海道は、魅力あふれる食と観光の宝庫として広く知られる一方で、国内の10年先をいく“課題先進地域”という側面も持ち合わせています。北海道における“アドバンテージ”と“課題”の両面でお役に立てるような活動を一つでも結実させることが私の当面の目標で、道経連の副会長という立場からも、その重要性と役割をさらに重く認識しています。

弊社内では、「技能・技術・DXが融合し、人が主役となるワクワクする製造現場を創造する」ことを年度の方策の一つとして推進しています。種々の課題がありますが、いずれの解決においても最終的に最も重要なのは“人”であると考えています。弊社内で鍛え上げた未来創造の力を、地元苫小牧そして北海道の産業に少しでも役立て、「人が主役のワクワクする北の大地」へますます発展させていくことに尽力してまいります。

ロシア　サンクトペテルブルク「ペテルゴフ宮殿」

“従業員ファースト”の一環で実施した新入社員とのフリートーク